

令和6年度まちづくり座談会会議録（四日町・横町）

開催日時	令和6年9月24日（火）午後7時00分～午後9時00分
開催場所	虹のプラザ「中会議室」
出席者	町長 庄司 中 まちづくり推進課長 大山和彦 建設課長 大沼進悟 総務課長 土屋弘行 副町長 高橋 裕 産業振興課長 八鍬 誠 教育文化課長 小林基流
出席者	10名

議事概要

1. 開 会	総務課長の進行で開会する。（午後7時00分）
2. 副町長自己紹介	高橋副町長が挨拶を行う。
3. 町長説明	庄司町長が説明を行う。
4. 懇談	
総務課長	ここから意見交換ということで、皆様からご意見・ご提言を頂戴できればと思います。なお発言される際は、地区名とお名前をおっしゃっていただいてから発言をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。質問は座ったままで結構です。まず、挙手をしていただければ、こちらの方で指名をさせていただきます。併せてこちらの方もですね、座ったままでお答えをさせていただきますので、その点はご了承をいただきたいと思います。それでは、ご意見等ありましたらお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。
参加者	横町にですね、実は秋葉神社という神社がありまして、その前の道路下に防火水槽があるんですね。もう何十年と経つ防火水槽なのですが、私の記憶は全然無いのですが、一度も水を入れ替えとか、そういうことをした経験がないんですが、かなり水が腐っているという可能性もあると思うので、それを町内でやれって言われても難しいので、町の方の防災上の対策みたいな形で、やっていただくとか、そういう手法ってありますか。
まちづくり推進課長	先ほど、防火水槽の管理ということでご提言がありました。ありがとうございます。私としても、現在、新たに作っている防火水槽については、ある程度の機密性を保ってあるんですけども、昔の防火水槽については、町としても、泥が溜まっているとかそのような点検というのは、実際やってはいないので、ちょっとこれから状況を見ながら検討させていただきます。よろしくお願いします。
参加者	最初にですね、土曜日の大雨、大雨で最上川が増水したわけなんですけれども、町の方からですね、土砂崩れとかの情報がLINEで入ってくるんですけれども、防災放送については聞こえないんですよ。聞こえないので、私のところに何人か電話が来たりしたものですから、提案なんですけれども、まず防災放送を聞ける

	ような状況を作らないといけないと思う。聞き逃せば電話で確認できますね。でも、聞こえなかったら、聞き逃しと違うもんですから、その辺を徹底してほしいなど。そして、連絡ですね。ヤフーとかなんかで、警戒レベル3とか4相当とか出てくるのです。その辺皆さんも見てみたいなので。ということは、人によっては、避難の準備しなきゃいけないじゃないですか、という人もいたのです。四日町はご存知のとおり、堤防が決壊するとすぐやられる地区なのですけども。 2つ目は、大事なものを2階にね、持っていつている人もいた。でも、その準備はいいと思うのですよ。ただ、町の方からですね、どこまで来たら避難指示をしますよと、今現在どこですよと情報があれば準備のしようがあると思います。そういうような放送をまず聞こえるようにするのと、そういう連絡を防災の方でしてほしいなど。要するに避難しなくてはいけないのではないのかというのが何人かおきまして、また一人暮らしとか年寄りとかに私も連絡しなくてはいけないかなと、そういう心配と、堤防におそらく5、6回行ったと思うんですけど、どれくらいと水位がきているかなと心配になる。そして、堤防の監視員さんが居たのです。そして監視員さんも放送が何言っているか分からないよと言ったのよ。これからも起きると思うんです。今13メートルですよと言われれば、避難水位まで、あと3メートルあると、そして1時間ごとに10センチ上がっているというような情報が入れば安心するし、そういうふうな住民に安心をもたらすような放送をしてほしいなど、そういう提案をしたいと思います。以前も言ったことがあって、もう6年～7年経ってるものですから、本当に改善なるのかどうか心配するのです。ただ、状況も変わって、そういうものが即対応できるものはね、人命にかかわる対応というのが一番大事なことでないかなと思いますので、ぜひやってほしいなと思います。 では私の方からお答えさせていただきます。まず防災放送がやはり聞こえづらいという意見は、やはり他の地区からも頂戴しているところであります。ただ、防災放送等を増やせば良いのかというだけではなく、あまり増やしすぎると今度音どうしがぶつかって、ハウリングを起こして、それも聞きづらくなるということで、今現在の配置にしているというふうなところであります。要所要所で、今回の時も水位の状況とか放送させていただいたんですけども、やはり雨なども降っておりますし、今やはり家の機密性も良いものですから、なかなか聞き取れないというふうなことかと思えます。その代替ということで、今の流れとしましては、公式LINEをできれば多くの方に登録をしていただいて、現在の水位の状況、あと高齢者避難は何メートルですよ、あと避難指示は何メートルですよということで、これをLINEの方では流させていただいたところであります。 ただ、ご心配なように高齢者ですよ、やはりその方々に対してどのような方法でお伝えするかというふうなことでありますけれども、どうしてもやはり防災放送だけではやはりちょっと限界があるのではないかと私も思っているところであります。他の市町村でも個別の受信機のようなものを整備している市町村もあるようですので、防災放送が聞こえづらい、また特に高齢者の方々については、そのような個別の対応ができないかどうかということで、内部の方でも検討しているところでございます。ただ、聞いてみますと、結構な費用もかかる
--	---

参加者	ようではありますけれども、やはりその辺は人命に関わるものですから、その辺は前向きに検討させていただいておりますので、ご理解いただければと思います。 高齢者などについては、町内にいる福祉の方でここに誰が居るというのを把握して分かっていると思うんです。その人にまず連絡を取って、連絡してもらおうという方法をお伝えいたします。非常に個人情報で人に話せないものも分かるんですね。歩けないとか、歩いて行けないとか、そういうことに明るい人が連絡を取っていただくというのが一番良い方法ではないかなと。
総務課長	確かですね、集める際に名簿にもまとめていて、承諾いただいた方を取りまとめた名簿みたいなのはあるはずで、それらの方々については、そういう方法ですね、見回りをしてもらうとかですね、そういうことも十分考えられますので、その辺の対応についても、検討をさせていただければというふうに思います。ありがとうございます。
参加者	今の関連ですが、令和2年7月の洪水で、私自身も当事区長で、大石田中学校に避難したんですが、あの教訓というのが本当に活かされているのかという大きな疑問があります。具体的に言いますとですね、いわゆる自然災害で一番怖いのは、いわゆる地震、洪水、土砂、この3つが大石田では一番怖い。ところが、各地区ごとに、特に洪水については、温度差がある。いわゆる最上川沿いの町内は、危機感高いんですけど、高台の川の近くじゃない町内は、いわゆる第三者的な立場で見ているような温度差が感じられる。というのは、あの当時避難したときに、町内の安否確認するにしても、避難の場所が虹のプラザ、中学校とバラバラになってしまう。できたら、自然災害、特に洪水関係で、危険がある町内に勉強会みたいなのを立ち上げて、温度差を減らす。一年でやってもなかなか浸透しないんで、関連ある地区だけでもいいんで、集めてですね、勉強会的なものをやって、もし可能であれば、地区ごとに避難所の指定を行っていければ。例えば四日町が大石田中学校避難所へというふうに指定されていれば、基本的にはほとんどそっちに行くわけですよ。そうすると安否確認がすぐできる。前あった時はもうバラバラで、その辺は確認できなかった。私も車で行って中学校に行ったんですけど、行った段階でスクールバスが全部止まっていました。町内の車が入るスペースが無かった。これちょっとおかしいんじゃないかなと。スクールバスをもう少し遠くまで移動できる余地があったのではないかなと。できたら町民の命を守ることであれば、町民を優先的に駐車できるようなスペースの確保をして欲しかったなというふうに思ったところです。それから、せっかく町の自主防災組織があるものですから、避難所に関しても、当時は町職員が頑張っていらっしゃったのですが、自主防災とタッグを組んで、運営することも当然できると思うし、やはりここ2年おきにとにかく水害が起きているんで、早急に対応が必要かなと思います。そうすると職員の負担軽減にもなるし、非常に有効だと思います。一気に全部できませんので、最初は何地区かをモデルケースでやって、実施して、可能性を探るという形に進めていただければと思います。 それからもう一つ、緊急治水対策プロジェクトをやってますけど、右岸の件に

	ついて話したい。あれだけの洪水でしたので、堤防下の下部から漏水して、その後四日町ポンプ場から上流にかけて対策工事をやっていただきました。それは良いんですけど、堤防の下に国交省管理の側溝が流れている。四日町の各家庭の排水というのは、川の方に行くんですよ。いわゆる下水とかは全部処理になったからいいんですけど、いわゆる雨水とかは、最上川のところにある側溝に入っていくんですよ。ところがその側溝というのが、定期的にポンプアップして、排水してるんですけど、だいたい 500 メートルくらいあるんですけど、下流に流れないんですよ。というのが、どっかで定期的に漏水が考えられる。令和 2 年 7 月の時は国土交通省から側溝の下に土砂が溜まっていたんで、それは全部処理してグレーチングの蓋されたやつを全部直してもらって、対策してもらったんですけど、排水機能が今現在使えない。それがどっかで漏水しない限りは、下流に流れるわけですけど、四日町までは流れてきていないということで、ちょっとこれが非常に懸念されると思います。ですから今プロジェクトで、左岸だけやってますが、やっぱり我々にとっては右岸も大事なので、その点検はやっぱり早急にお願いしたいと思います。以上です。
総務課長	最初の 1 点目につきましては私の方からお答えいたしますけれども、やはり避難所の運営については、町の職員だけでは対応しきれないというところがあるというのは本当に現実かと思います。そこでやはり自主防災組織のご協力、これは本当に大変有難いことですし、本当に助かっております。ありがとうございます。そういう勉強会といいますか、研修会とかですね、そういうことを今後進めていきたいというようなこともありまして、今年度から「地域防災専門員」を雇用したというふうな面もございます。防災専門員から地域の中に入っていて、そういう勉強会なり研修会なり、その辺今後してまいりたいというふうに考えておりますので、その際はぜひご参加いただければありがたいなというふうに思いますので、よろしくお願いします。
建設課長	2 点目の最上川の右岸の堤防の件です。私は以前、まちづくり推進課の方で担当させていただいておりました、堤防下の側溝についてはお話をよく伺っているところです。清掃したときもお話をよく伺っておりました、国土交通省の大石田出張所と協力して清掃をしていただいたということでお聞きしております。堤防の管理自体は国土交通省の管理になってきますので、左岸側の整備の後も当然ながら右岸の方もかなり老朽化していますので、そこはそのままでもいいのかということもお話は伺っております。その堤防本体の対策と堤防下の側溝の対策、それぞれについてこういう要望をいただきましたということで、ちょっとお伝えしまして何らかの対策をしていただくようにしたいと思いますのでよろしくお願いします。ありがとうございます。
参加者	私は今年の区長会の会議で出させてもらいまして、その時ですね、ちょっと発言したんですけど、四日町内の桂の木の下葉について問題にしたんですよ。何でそれを言ったかという、さっきも言ったとおり私は区長が 2 回目なんです、その時も前の時も言われたんですよ。以前に建設課で相談した時、今回は予

参加者	算無いと言われたんです。じゃあ次回お願いしたいと言ってしばらく経つ。それだったら、枝の伐採くらいはできるんじゃないかと思って、先日ですね、建設課さんに電話をかけてですね、枝も出て標識が見えないと言ったら、すぐに対応してもらいました。非常にありがたかったです。でも、本当にやる気あるならば、町民がどうやってるか見て欲しかったです。そして、箒の1本でも持って行って掃除するとか。そういう姿勢を見せてくれれば、町役場の人も頑張っているんだから、こちら頑張るような気持ちになるかもしれませんが、何も無かった。実際、今高齢化になって先日クリーンアップでお手伝いしたんだけど、もう一時間で終わらないよね。一生懸命やっていたんだけど、私以上のお年寄りが結構おりましたから、今後とも大変になるなと思いました。私が区長をしている間になんとか方向性だけでも見せたいなと思って頑張っている次第なんだけれども、町の方で予算が無いと、一点張りで言われたら、我々としても次の言葉が出てこないのよ。それは知恵を出してですね、何かやってほしいなという考えです。 あともう一つね、犬の散歩する方がいるんですよ。そしたら歩道の桜の木の根っこが歩道の方に出てるんですよ。それで、つまずくんですよ。危ないので、そちらの方も何とかできるような状態を作してほしい。ぜひ対応してほしい。 街路樹に関する当事者ではないのですが、自分の敷地内の近くに街路樹が植えてあるわけです。そこを何十年と、あの時は30年以上だと思うんですが、私の記憶によって、一回だけ刈り払いしていたと思います。私は区長が変わる度に、区長会の議題に出してほしいと伝えている。実際、桂の木ってのは何も役立たないわけ。桜だったら綺麗だなと思うんだけどね。だから、やっぱり業者に頼んで、枝払いは最低でもやってほしい。前は伐採なんて話も出たらしいんだけどね。相当金額がかかるから。上の方も電線とか電話線とかごちゃごちゃになっている。そうすると自分の範囲内を個人個人でやっているのが現状なんですよ。私も高齢者では本当にきついですよ。袋ちょうだいって言うと、区長がボランティアの袋を持ってくるけど小さくて100枚も使わなかったら片付かないような状況だ。 あと、ゾーン30プラスというのがあるのですが、「プラス」の意味があまり分からなかったのですが、プラスというのは何でしょうか。
建設課長	まずは街路樹の落ち葉の件です。町道内の環境整備にご協力いただき、本当にありがとうございます。我々も管理、毎日努めているわけですが、作業員の方は、今は季節雇用の方をお二人お願いしまして、例えば草刈りであったり、伐採であったり、そういった業務をお願いしております。なかなか全路線、やっぱり見て回るといのは、物理的にちょっと不可能でして、いろんな要望を各地区からいただいておりますが、全てに対応できていないというのが、本当に申し訳なく思っているところです。落ち葉につきましても、都市計画の道路を作る際は、景観をどうしても守るためといいますか、街路樹が必須だったということがあります。その際に、多分樹種も選定して、地区の方にもご相談して、これで良しということで、現在の整備がなされているというふうにはお聞きしています。今では想像しなかったような大きさになっている状況で、逆に生活の方に不便をかけているということであれば、枝払いなどすぐにできればいいんですが、今年言われて今

	年できるかと言われると、本当にそれはちょっと申し訳ない、また予算が無くてできません、としか言いようがないんですが、来年度に向けて予算確保できるように、ちょっと努力していきたいと思いますので、お時間をいただければと思います。それでもちょっとダメだということであれば、伐採でも仕方ないのかなと感じています。地区の中でお話し合いを持っていいただければありがたいかなと思います。 2点目の歩道の傷みです。これもいろんなところでご意見いただいております、本当に怪我をさせているような状況では当然道路の管理者としてまずいかなと思っています。ただ、これもやはり金がかかることで、まずは車道の整備がどうしても、除雪もありますので優先せざるを得ないというところがあります。ただし、さっきおっしゃったように本当に転んでしまうような部分があれば、そこは早急に修繕、対策せざるを得ませんので、すぐにできないとしても、まずは教えていただければ、現場を確認に行きまして、なんとか予算を確保して直すようにしていきますので、教えていただければありがたいと思います。 それから3点目のスクールゾーンのプラスですが、あれは、県とそれから警察と協力しまして、スクールゾーンだけではなくて、その周辺を一体的に安全確保しようということで、去年から取り組みを進めております。道路にプリントをして、アピールできるような対策を施したというところでございます。プラスの意味については、今は分かんないです。例えば役場と小学校を結ぶ路線を狭くしたりとかそういった対策も含めていろんな対策をしているというものです。
まちづくり 推進課長	車両が通る幅を狭く見せるようなことをしたりして 交通安全対策をさらに高めたもの。それが「ゾーン 30 プラス」です。国土交通省と警察の方で、令和3年度から始めた事業になります。
参加者	オレンジのポールがだから立っているのか。あれはどこで設置したのか。
建設課長	あれは県で設置したものです。
町長	先日も座談会があつて、同じように桜の木の街路樹が大きくなって、孫が転んで怪我したという事例もお聞きしているので、やはりこれは早期の対策が必要だと思っています。やはり枝払いなのか、伐採なのか、これから考えていかなければならないと思っていますし、すぐ切る予算が無いので、来年度に向けてそういった予算を考えていかなければいけないと思いました。ありがとうございます。
参加者	国道とかはもう毎年みたいに伐採やって、ほとんど伸びないくらい管理してるんですけど、町道はそのままという状態を見てるものですから。井出地区なんかはどうしているんですか。
建設課長	特段、建設課で何かやっているということはないので、地区の方からご協力いただいている状況です。ボランティアについては、町の方でも協力はできるので、もし必要であればおっしゃっていただければ。そのぐらひは協力できると思いま

	すので。 以前、文書で要望したことがあったが、回答が返ってこなかったことがあった。こう何もない状態だと、区長って本当にちゃんと町に要望しているのかということと言われる。形としては何も残らないので、区長から出た要望についてはできるだけですね、文書で回答していただくような方法もぜひ改善してほしいなど。
参加者	
まちづくり推進課長	前に文書をいただいたときに、こちらからお返しさせていただいていないということに対しては、大変申し訳ございません。現在では、地区の方からの要望事項であったり、各団体の要望事項については、うちの方で取りまとめをしまして、関係各所からご意見や感想を作成していただきながら、2週間とか1か月くらいは期間を設けて、ご回答を返しているような状況です。
参加者	あと、落ち葉だけれども、落ち葉の袋詰めをした場合、クリーンアップの時はゴミ集積場に置いてくださいということをしているが、一週間に一回とかしていかない。
参加者	今の件で、私が当時確認したのは、クリーンアップの時はまちづくり推進課で回収して、都市計画もあるので街路樹については、いつでも建設課で回収してくれる。そういう仕組みだと、私は認識していました。
建設課長	すみません、私も初めてお聞きしました。うまく引き継ぎがなっていなかったようで、そういうふうにお答えしているとすれば、おっしゃるとおりだと思います。やっぱり個別にご連絡いただけると、どうしてもなかなか対応が難しくなってしまうので、申し訳ないんですが、区長さんに取りまとめていただければ、ありがたいなと思います。
参加者	落ち葉を燃やすのは良いのか。
まちづくり推進課長	畑の残渣なども含めて原則禁止です。病虫害の駆除などで無い限りは。
参加者	いろんな問題が出てきております。7月、8月の自然災害、また9月の人災、非常に大変な思いをしていると思っております。でも、大変頑張ってくださいたい。特に人災の方ですが、これもどういうふうになるのか分かりませんが、そういう意味では、町民が納得するようなけじめをつけていただければと思います。 また、統合小学校が新設されるということで、これは良い学校を作ってくださいたいと思います。ですが、この前、学校名募集しましたよね。大石田中学校に併設になるわけだから、大石田小学校になるのかと思っていたのですが、この辺ちょっとお伺いしたい。

教育文化課 長	校名については、募集を行っています。大石田小学校も候補として挙げていただいて大丈夫です。何も無く、校名を決めてしまうと、いろいろなご意見もあると考えられたので、募集という形を取らせていただいたところです。
参加者	現在の大石田小学校の跡地をどういうふうに考えているかを区長会では質問したんだけど、その時は出てこなかった。私から提案なんですけども、四日町には公民館が無く、防災のヘルメットとか、区長が預かっている。しかし、町で備蓄の補助もしているが、保管場所が無いので、水とかそういうようなものを扱えないかなと思っている。是非今の大石田小学校の一部を地区として使用させていただけないかと思う。今後公民館を新たに建てるとか、そういうものも考えておりませんし、そういう予算も無いと思いますので。
教育文化課 長	はい、廃校の利用については、今いろいろと庁舎内の方で検討しているところですけども、たとえ地元地区といえども、特定の地区に対しての提供というふうなことは今考えておりません。ただ公民館制度につきましても、今各地区に中央公民館分館という形であるわけなんですけども、そういう制度を取り入れているのは県内では大石田だけなんです。他のところは大体地区公民館ということで、大きなくくりの中に一つ公民館があって、そこで全ての地区を網羅するというふうなやり方をやっているの、そちらの方に移行するのも一つの手じゃないかということで検討しておりますので、公民館の在り方も含めて検討しているところなのでご理解いただきたいと思います。
参加者	大石田町の人口問題、定住対策と書いてありますけれども、今、赤熒斗出してお祝いするということがまずありません。後継ぎ問題で困っていないやつはどこどこかぐらいしかいないような状況です。これは限界集落という言葉が前に流行りましたけれども、今限界集落っぽいけど、絶滅集落になっているというふうに思います。大石田町で、他所に移住する人がいっぱいいて、空き家がバンバン出ている。空き地になっているのは、人の土地を借りている方だけで、自分の土地で家を建てていている人は、どうしても無くて空き家として残る。売りたいくても売れない。ほんとに定住対策するなら、土地付きの建物を無償であげますよというようなくらいしてほしい。 それから観光物産の振興について、そば街道とあるが、交流人口の拡大を図ることなんですけれども、まずそれは結構なんですけども、よそから来る人は、だんご屋は知っている。すごい影響力だなと思っている。そばはそば街道と何かに表示とかできるが、だんご屋はたった一軒だからこういう町で表示が難しいと思うんですよ。何かと言うとだんご屋を褒める方法がないのかなと思いました。大石田で本当に交流人口に貢献しているのが今の段階ではだんご屋ではないのかなと思っています。 あと、昔は仲人という人がいた。そういう制度を大石田町でもできないのかなと思います。民間の仲人の力を借りて、実施してみるとか、仲人の復活もいいと思う。

まちづくり 推進課長	空き家のことについて、まず現在の取り組みについてお話しさせていただきます。まず、空き家の調査という形で、まず実施したのは、3年前になりますので、もう既に空き家として解体して無いとか、新たに空き家になったというところ、老朽化したところというのもあるので、今年各地区の区長さんの方をお願いをして、ちょっと更新作業をお願いさせていただきました。できるだけ新しいほど、利用というか利活用が進む傾向にあるので、その新しいところに空き家バンクに登録しませんかという形のアプローチをさせていただくことになっております。空き家バンクの紹介についても今進めているところです。あと、実際に売買価格の設定について、無料でという形については、私の方からは答弁できませんので、できるだけ地権者の方とお話しさせていただきながら、評価額など、土地建物の取引だけの資格などを持った方から、おおよその妥当な線というのを出していただきながら、それを基に登録される方とお話をさせていただいています。できるだけ低く設定した方が、契約率が高いので、そこはなかなか折り合いがつかない場合もございますし、やはりそれは登録者の希望のもとで設定をする場合もありますが、そういったお話をさせていただきたいと思います。
町長	今年の7月にですね、島根県の離島の海士町ってところに行ってきたんですけど、そこで話をいろいろ聞いてきたら、やっぱりそこもやはり、島民が建物を寄付して、そこを移住者に対してのシェアハウスであったり、子育て住宅にしたりしてですね、今、人口の18%が移住者になっているそうなんです。今年も17人ぐらい、70%が女性だったそうで、シェアハウスの中でさまざまな体験しながら、3か月とか6か月っていうスパンで、今、移住体験をしているような状況なので、そういった寄附制度がどうなのか、制度的にちょっと僕も法律まだ詳しくないので、出来るか出来ないか分からないんですけど、そういう発想はすごく僕も感化されてきたので、やってみたいなという気持ちはあるので、検討していきたいなと思います。 あと仲人ですが、なっていた方がいるか分からないですが、今、大石田の30歳から59歳の男性の方、4割以上が独身なんです。女性が3割ちょっとなんですけど。30代で58%ぐらいが、20代で47%ぐらいの男性が独身というデータがあるので、やはりそういったのが、ただ無理に結婚させるのも先ほどお話ししたとおり、パワハラとか嫌々結婚させることになるので、そういった方がいらっしやればぜひ検討課題にはなるのかなとは思うんですけど。あとは婚活事業であったり、様々な結びつけられるようなことをしていきたいなと思います。 だんご屋さんだけPRするのはなかなか難しいので、そば街道全体で、そばを食べに来る人が25万人来ていると言われていています。多分、十数軒のそば屋さんのほとんどが食べ終わった後、だんご屋さんに来ているのは間違いないかと思いますので。様々なイベントを町で開催していて、町外のお客さんが来るイベントでは団子食って、そば食って、風呂に入って帰ってけろという発信をしているんですけども、様々な面でそういったことはしていて、そこだけをピックアップするのは行政的には難しいかなと思いますけれども、多大なる貢献をさせていただいているのは間違いないので、様々なところでPRをさせていただければと思います。ご意見ありがとうございます。

参加者	移住定住の促進というのがあるんですけども、企業の誘致なんかはお考えでしょうか。
町長	今、ここと商談しているというところは特にはないんですけども。
参加者	移住するには働く場があった方が良いので。難しいかと思いますが、ぜひ。
町長	そういった、起こすほうの起業をされる方々が来れるような施設であったりですね、働く場なども検討していきたいと思います。
参加者	関連してですけど、移住の関係では尾花沢のスイカ関係、市内や市外の方を定住させて、スイカ栽培に取り組んでいるというのが、一番新しいニュースなわけですけど、大石田町も尾花沢スイカを作っているわけです。ですので、その辺がうまくできていると何かできるんじゃないかなと思っていたところでした。
町長	来年度に向けて、地域おこし協力隊の農業分野での募集をかけております。そこからまず移住してくれる方というのと。あと、首都圏の方で新農業人フェアに出展しまして、そういった大石田の農業に興味を持つような方々と商談会を通して募集というか、探しているような状況であります。
まちづくり 推進課長	今年の夏に2週間、協力隊のインターンシップ事業としまして、スイカの収穫体験などをメインとしたインターン事業をさせていただきました。その中で約4名の方が県外から大石田に訪れまして、スイカの収穫体験や出荷などの体験をさせていただきました。これについては、来年度以降も継続したいということで考えているところです。そういったものをきっかけにして、町に就農していただける方、特にUターンといいますか、何らかのゆかりのある方を中心としまして、そういったイベントを開催してまいりたいな、できるだけ町の農業を知っていただくところから始めていきたいな、というふうに考えております。
参加者	ちょっと話題を変えて申し上げるんですけど、福祉関係で一人暮らしの高齢者で、12月に手術して除雪が困難だという方がいらっしゃいました。たまたま雪が少なかったので良かっただけなので、福祉課と民生委員の連携をもっと強化してですね、スピーディな対応となるようにしていただきたい。おそらく一年過ぎればまたその年からは健康で除雪できるんですけども、やっぱり手術後ですので、なかなかできないというのがあったもんですから、その連携をお願いしたい。本人は手術中も病院にいてもかなり心配していたということがあったもんですから。 関連して、一人暮らしではないのですが、除雪が流雪溝の蓋のところに山盛りで置かれるんですよ。私も腰を悪くしてしまって、配慮を何とかできないのかなと。もう一つはですね、寒いとき、流雪溝の蓋が凍って開かないときがあるんです。みんなもちょっと経験があるかなと思うんですが、流雪溝の蓋を凍らないよ

建設課長	うにビニールとかなんかしても、それはダメだとなっているんです。私はボールを持ってきて開けているんですけども、女性だと大変だと思う。 個人的にはお湯をかけていただくのが一番良いかなと思います。やっぱりグレーチングの蓋が2枚のものはどうしても重くて、3枚のものに交換してほしいという声もありますので、その辺をこれからどういうふうに対応していくかも、ちょっと今、課内で検討しておりますので、それも含めて、対応を考えていきたいと思っています。
参加者	当番制で衛生ステーションの管理があるんだよ。遠いところは家から100メートル以上あるよね。その人たちにお湯を持ってきてというのはなかなか難しい。
建設課長	地区のなかでなんとか協力していただければありがたいと思います。申し訳ないですが。
参加者	大石田の花火は歴史もあって、今年たまたま最後の町民号が5発で終わったということで、がっかりしたとの声もあった。10連発ってだいぶ浸透していたみたいで、それがいきなり5発で終わりかと。さっき小学校の廃校の問題についても言っていたのですが、せっかく歴史ある花火大会なので、そういうひっかけの形で道の駅なんかの構想があれば、非常にいいなと思います。せっかく人来て、そういうのがあれば、非常に効果があるのかなと、ちょっと思ったところで、ちょっと夢みたいな話ですけど、ちょっと提案させていただきました。
参加者	でもあれだよ、花火が高くなっている。4万円が7万円くらいになったんだよ。だから予算が決まったところからさ、花火を選ぶっていうのはちょっと難しいと思う。
総務課長	この辺は、やはり盛り上がるようにこれから考えてまいりたいというふうに思います。そのようなことでですね、本日様々ご提案の方をお聞きしたんですけれども、今後の町づくりの方に活かしてまいりたいというふうに思っておりますので、今後とも様々なご意見等を頂戴できれば大変ありがたいなというふうに思っております。以上をもちまして、座談会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。
6. 閉 会 （午後9時00分）	